

# 平成21年度 神戸市立神港高等学校 マネジメントプラン報告

## A(1)学力向上のための授業改善

具体的方策(取組内容・状況)	達成状況	自己評価	平成22年度に向けて	学校関係者評価
① 教科研修実施	○教科研修報告書(1学期取組状況・2学期取組状況)を全教職員に配布し研修を深めた。また、1学期取組状況は第2学区中学校へも配布し取組状況を知らせた。	1.05	1・2・3はそれぞれ密接に関係している。 ※授業規律の改善、学習習慣の意識付けを明確に目標に掲げる等が昨年度に引き続き、全教員の意識が高い項目である。授業公開週間について、教務部でまとめているが、「もっと積極的に気楽に公開しましょう」という雰囲気をつくる。また、多忙な参加者のために、実施期間を長くするという意見もあがっている。また授業公開のテーマをつくる、公開週間前に教科会をもつという意見もあるため検討をしていきたい。 ※各教科のめあてが話し合われており、次年度へ継続していく。※学校全体の授業に対する意見としては、生徒指導も含めての授業のあり方や、過去の成功体験にとらわれない、新たな挑戦もあげられている。	A-4 B-4 教科研修-B 他はA
② 授業公開週間と研究会の充実	○教科研修報告書(1学期取組状況・2学期取組状況)を全教職員に配布し研修を深めた。また、1学期取組状況は第2学区中学校から13日に実施した) 授業公開週間見学報告書、および各教科振り返りの会を実施した。また12月2日に全体研修会を開催をした。(まとめ3枚) ○本年度は事前研修(10月13日)を実施し、「授業改善」に向けて説明をおこない、共通理解を図った。 ○11月13日午後開催される金銭金融教育公開授業案内を市内中学校、保護者に配布した。○11月13日 学校関係評価者による授業参観とスクールマネジメント委員との意見交換会を実施した。	1.14		
③ 生徒授業アンケート	○生徒授業アンケートを11月18日に実施した。全36項目中、達成度アップ28項目 ダウン8項目 ○昨年度の比較分析・授業アンケートの結果・分析を全教職員に配布した。○授業アンケートの結果をWebで公開している。	1.13		

### 学校関係者評価コメント

・オープンハイスクールについては日程の検討をしてほしい。11月上旬に実力テストがあり、そのあとでは意味がない。もう少し早くできれば夏季休業中がいい。11月の段階ですすでに私学を運動部の関係で考えている生徒もいるのが現状である。公立高校側のアピールとしても時期を検討すべき。・生徒のアンケート内容がどのようなものか知りたい・学力向上に対する教員の意識と生徒、保護者の意識とが一致していないように思われる。生徒、保護者に対しても学力向上の意識を高めてもらう必要があると思う。・授業公開の日程の検討を。国語の授業の難しさの研究を。2年目でダウンした項目の確認。・教師側からの一方的な授業の進め方ではなく、生徒が参加できるような公開授業をしてほしい。・相手の言葉を静かに聞く態度が養成される必要有り。・真面目な学習者が一部の不真面目な学習者のために犠牲となっていないだろうか。この点で教師の責任は重大である。「人気のある教師」必ずしもいい教師とはいえないのでは。・学校教育理念への集約ポイントがもっとも現れてほしい。同視点に添って掘り下げた説明がほしいところ。中学校への取り組み状況はすばらしい。父兄、教育関係者、産業界が混在しての学校評価体制がすばらしい。Webによるアンケート公開はすばらしい。成果物への閲覧者を増やすためにも、トップページにて、毎週ニュースが更新されるなどすればなお良い。

A(2) 各科の特色を明確にし、学力、専門性の高い知識・技術の習得

具体的方策(取組内容・状況)	達成状況	自己評価	平成22年度に向けて	学校関係者評価
<p>① 普通科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラーコースの改善と活性化</li> <li>・ブロードコース(理系)の定着</li> <li>・ブロードコース(文系)の充実</li> </ul>	<p>○第1学年普通科生徒全員にアンケートを実施した。また普通科志願学区の中学校にアンケートを依頼し、ソーラーコース改善へ向けての検討を行った。(ソーラーブロード委員会) ○ブロード理系については、甲南大学理工学部と連携し、1月22日化学・生物の実験、講義を実施した。○第2学年補習7月21～28日実施。勉強合宿7月29～31日実施 ○第1学年補習7月21～28日実施。勉強合宿7月29.30日実施 ○第3学年補習7月21～31日実施。勉強合宿8月19～21日実施 ○1年文理説明会を9月に実施した。 ○模試受験者(延べ数)1年 102名、2年175名、3年173名 ○12月8日・9日・16日、普通科第2学区及び中華同文校を訪問し、ソーラーコース、ブロードコース(入学前での普通科コース選択含む)について説明するとともに、1月受検志望生徒に対するプリントを配布した。2月2日に、第3学年の生徒へコース選択についてのアンケートを実施する。○第2学年ソーラーコースと理系、それぞれ12月16日に関学、大工大見学。またソーラーコースと理系ともにH22年3月23日より2泊3日の勉強合宿を実施した。</p>	0.64	<p>※一般入試まで努力を続けると、ソーラー・ブロードに拘わらず結果が出る。学習習慣をつける取り組みを。 ※3月24日合格者説明会後のソーラー選択者を見て、取り組みを考える。また新教育課程の研究において、普通科のコース選択について研究を深める。</p>	A-4 B-5
<p>② 商業科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C科プロジェクトの推進</li> <li>・習熟度別授業の研究</li> <li>・先進校視察の実施</li> </ul>	<p>○甲南大学経営学部との連携覚書締結 ○大原簿記との夏季集中セミナー7月21～24日補習27～29日実施 参加生徒2年33名1年42名○10月に甲南大学経営学部での模擬講義受講&amp;施設見学実施1年80名参加 ○簿記検定結果:1年日商簿記3級(過去受験実績なし)6名合格○大学見学は生徒にとってプラスの刺激をたくさん得られ、意義あるものとなった。○大学、専門学校との連携で意欲ある生徒の力を伸ばし、全体の前向きな雰囲気作りとしては一定の成果を上げている。 ○春季集中セミナーを大原簿記専門学校と調整している。</p>	0.87	<p>※外部に対しての積極的広報活動を継続 ※科別集会を一時間確保し、専門学科生としての自覚を高める。</p>	A-5 B-4
<p>③ 情報処理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験情報処理技術者試験への午前免除制度への取組</li> <li>・集中セミナーの実施</li> <li>・資格取得の推進</li> <li>・小学校との連携事業推進</li> </ul>	<p>○国家試験情報処理技術者試験合格者状況 シスアド春季6名春季以前5名 計11名 春季ITパスポート20名 ○下記 他校との連携事業参照 ○H22. 3月23日より2泊3日の勉強合宿計画(ITパスポート1年26名、基本情報処理2年9名程参加希望)○国家試験情報処理技術者試験合格者状況 秋季ITパスポート3名基本情報処理技術者試験2名合格 午前免除試験11名合格○課題研究作品のHPへのUP○国公立大学進学5名○2009ICTハイスクールに選抜2年1名</p>	1.3	<p>※外部に対しての積極的広報活動を継続 ※情報処理科の取り組みは安定しているが、企業留学の連携先について社会的状況から再度検討していく必要性が生じている。 ※科別集会を一時間確保し、専門学科生としての自覚を高める。</p>	A-5 B-4
<p>学校関係者評価コメント</p>				

・入学時のコース選択に関し、生徒および保護者にも十分理解をしてもらう努力が必要ではないかと思う。・理系と聞くと難しく思うようだが、社会にとっては大変役立つ仕事が多いので、文、理系を合わせた教育方法はどうか。・大学との接続性を高める事が指標のようであるので、これに向けた取り組みは進んでいるように伺える。校外引率には労力がかかるが、生徒が直接的な刺激を受けることは貴重な取組であると考え。・コースの説明、広報を引き続きお願いしたい。・日商簿記検定受検の取り組みはとてもよい事だと思う。簿記は1級の能力が必要とされるので3年間での資格取得を全員の目標にしてほしい。・外部交流が多いことは高く評価できる。

A(3)進学指導における模試の有効活用。就職指導における職業観の育成

具体的方策(取組内容・状況)	達成状況	自己評価	平成22年度に向けて	学校関係者評価
④ 進学 模試の活用 ・進路指導部による模試受験者に対する事前事後指導を毎回行い、生徒の意識、意欲の向上を図る。 ・外部講師を導入 ・スタディサポートへの全教員参加	○事前指導に過去問を配布、具体的な勉強を指導した。○3年生に対して、進学版卒業生を囲む会を開催し、学習意欲を向上させた。○公務員セミナーへの積極的な参加を進めた。○ファイナンスプランナーによる保護者向け教育資金講話を開催した。○3年生の意欲を高めるとともに、1、2年生への進路指導を継続した。○1年生への文理説明会を開催し、将来への方向性について指導した。○希望進路達成状況(1/12現在)75%	1.07	※スタディサポートを1・2年生は2回実施する。3年生は1回実施に変更。学習習慣の把握、進学のための学力判定に利用。	A-4 B-5
⑤ 就職 進路ガイダンスの実施 ・希望者の早期内定	○調整会を例年より1週間早くし、受験企業決定後の面接指導(8月26～31日)を実施。受験勉強に時間をさくようにした。○大原簿記専門学校講師による面接指導を実施し、外部からの視点を取り入れた。○直前指導を実施し、就職に向けての意識を再確認させた。○未決定者に就職フェア・就職フォローの会を紹介している。就職者32名 公務員試験1名(神戸市行政・県警ともに合格)公務員については、セミナー参加者は成果をあげている。就職内定率12月末現在81.6%	1.23	※公務員セミナーには2年6名、1年5名が参加。会場を2・3月神港にした。4月以降も神港で実施し、生徒が参加しやすくする。 ※就職希望者の模試に外部模試を導入、ルールを守り学校生活をまじめに送る(受動的)だけでなく、能動的な学校生活を送る仕掛けを考えたい。	A-5 B-4
学校関係者評価コメント				

・模試の実施について学校は協力的であると感じているが、生徒自身が意欲的に取り組んでいないと感じる。時間一杯活用してあきらめないという意欲がない。・模試に対する課題を克服されることを期待します。・大学卒業を目的とするのではないが、社会人として大きな力となるので専門学校として推進をお願いしたい。・成果指標が読み取りにくい、外部講師を利用した保護者向けの教育資金講話等、実践的な取り組みが高く評価できる。・就職状況は社会の動きに左右されるので難しい。・今般の不況下において80%を越える就職率はすばらしいことだと思う。・外部講師による面接指導は高く評価できる。継続しての実施を期待したい。

B(1)規範意識を高め、マナーの向上を図る

具体的方策(取組内容・状況)	達成状況	自己評価	平成22年度に向けて	学校関係者評価
⑥ 服装を正し、時間を守る。 ・生徒会が主体となった活動実施 ・集会時における啓発実施 ・授業開始、終了時の指導推進	○生徒会による啓発ポスター作成 ○平成21年度6月遅刻人数116人 前年度比48%減○生徒会による校門挨拶運動を実施したが、9月の遅刻指導、声かけ指導が十分にできずに、9月遅刻270人前年比26%増となった。12/1朝礼で現状報告及び遅刻防止に対する呼びかけを実施した。	0.62	☆この項目とは文言はややことなるが、H20は0.68 規範意識を高めマナー向上を図ることは一朝一夕でできることではない。学校には目に見えるカリキュラムと見えないカリキュラムがある。見えないカリキュラムとは、学校行事、生徒同士の話や部活動の状況、そこで勤務する教職員の立ち振る舞いなど、いわゆる校風につながるものではないかと思う。そういう点を意識しながら、生徒の「伸びしろ」を広げてやっていくためにも、次年度新たな気持ちで取り組む必要がある。	A-3 B-6
学校関係者評価コメント				

・あいさつという点では減ったと思う。学校へ入ると放課後部活動をやっている生徒はぱっと反応する。それが生徒の安全面にもプラスになる。自分の会社の若い人をも、お客様がはいつてきても声をかけない。声をかけるように指導している。会社の仕事上、防犯カメラも多数販売しているが、防犯カメラが増えても関心がなければ意味がない。危機管理にもつながる挨拶指導を。神港の生徒だけではないと思うが、校外でのマナーについて指導してほしい。地域をみていると登下校時のモラルが低下している。地域との協力も必要でお手伝いしていきたい。・マナーや時間を守るという意識は家庭の中で育てられるものであるため家庭の役割が大切だと思う。・規律を乱すのは一部の生徒だと思うが、その生徒の家庭状況はどうだろうか。非常に難しい問題だと思います。・数字にこだわることなく、一人の成長への問題解決的な指導を。登下校の様子などもう少し気をつけてほしい。・和気藹々の楽しい学校生活は大切だが、規律こそ大切である。・難度の高いテーマだ、が成果指標としての遅刻者数カウントは理にかなっている。できれば学校教育理念と連動した指標があると良い。・服装については問題ないと思われる。

## B(2)部活動の活性化

<p>⑦ 部活動振興 ・顧問、担任との情報交換を密にし、入部率、部参加生徒の定着を図る。 ・活動内容を充実、向上</p>	<p>○入部率75.0%(20年度75.4%)2/1現在の入部率は76.4%。当初より1.4%増加。○フープロ部県大会団体初優勝、近畿団体2位 全国大会出場 男子陸上部個人近畿7位 女子バレーボール部県ベスト16 近畿大会 出場(2回戦進出) 野球部秋季地区大会優勝 ○女子バレーボール部、女子バスケットボール部による佐用町ボランティア○専門学科見学会では、本年度初めて部活動体験を取り入れ、中学校との交流を積極的に進めた。○保護者アンケートからは部活動充実という評価は82%で高い評価を得ている</p>	0.65	<p>※すぐに解決できないことも多々あるが、部活動が活発に行われている学校ほど学校の活力があるのも事実である。</p>	A-7 B-2
<p>学校関係者評価コメント</p>				
<p>・できれば学校教育理念と連動した指標があると良い。</p>				

## C(1)中学校への広報活動の充実

<p>⑧ 中学校への新聞のタイムリーな記事の編集計画・中学校訪問 ・3学科および普通科複数志願制度について説明 ・生徒会主催でマスコットキャラクターを募集し、中学生等にPR</p>	<p>○6月学校訪問実施、新聞提供 ○8月4、5日商業科、情報処理科見学会 参加中学校77校 参加生徒502名 保護者141名 付き添い教員48名 体験入部120名 (実人数生徒475名保護者104名教員51名体験入部122名)○中学校への新聞配布○9月中旬～中学校への学校訪問実施 ○マスコットキャラクターの決定 生徒会による選考(応募数106件から20件)→学校関係者(生徒会長含む)による選考(3件選考)→神港祭での紹介→神港関係広報及びグッズに使用○マスコットキャラクター決定「しんぱち」、「しんぱち」入りクリアファイルの作成 ○12/1～1/12 花時計ギャラリーの商業科展示とともに○美術科、書道科の作品展示1/14～1/20 兵庫区勤労市民センター○普通科H21 1.08 H22 1.04 商業科 H21 1.60 H22 1.28 推薦商業科H21 3.08 H22 2.28 情報処理科 H21 1.13 H22 1.25</p>	1.13	<p>※3年生の普通科アンケートを活用しながら、普通科の広報を図る。 ※商業科・情報処理科の魅力ある広報</p>	A-8 B-1
<p>学校関係者評価コメント</p>				
<p>・普通科複数志願制度における今年度の結果を見て、新たな取り組みが必要になるかもしれない。・神港がめざす教育方針をPRする活動をお願いしたい。・広報キャラクターの設定やその認知に関し、積極的な取り組みが高く評価できる。・より一層の中学校への広報の努力をお願いしたい。</p>				

C(2)他校種との連携の充実

<p>⑨ 小学校との連携充実 ・地域学習や安全学習連携校を、小学校に呼びかけ</p>	<p>○KOBE教育フォーラムで連携状況、取組について発表 夢野の丘小、魚崎小、会下山小の3校と連携 データ提供校 御影小・湊山小・押部谷小・狩場台小・水木小・藤原台小6校確定 高津橋小学校30周年記念事業 ○データ提供校の「こべっこマップ」への掲載に向けて情報処理科生徒を指導する。その中でプログラミング学習への意欲を高めた。○会下山小合同発表会1/29 夢野の丘小10/8 魚崎小12/2合同探検「こべっこマップ」掲載小学校 会下山小、夢野の丘小、湊山小、水木小、魚崎小、御影小、藤原台小、押部谷小、狩場台小、美賀多台小、高津橋小11校○3/16全市校園長特色ある推進事業報告会、市長にこれまでの実践を指導課を通じて報告 ○兵庫区域別人権教育研究協議会(湊川中学ブロック)で、湊川中学校・会下山小学校・神港高校で3年間に一度か、5年間に一度授業公開を定期的実施する。</p>	<p>1.51</p>	<p>※地図の種類やコンテンツの充実を図り、小学生の視点による手作りの神戸地図を作成していく。人と未来防災センターとの連携</p>	<p>A-7 B-2</p>
<p>学校関係者評価コメント</p>				
<p>・先日の会下山宣伝株式会社ではお世話になった。小学校も非常に喜んでいる。・目標に向けて着実に成果をあげているように思う。・地域学習は大変有効と思う。子どもたちの連携で、良いものができるのでは。・大変だと思いますが、このまま続けてください。・外部との連携が活発になされ、これを継続していこうとする姿勢がうかがえて高く評価できる。</p>				

C(3)スクールマネジメントの充実と情報発信

<p>⑩ 学校評価、外部評価、保護者アンケート、授業アンケートの実施と結果公表 ⑪ 市入試事務全般の改善の公表 ・原因の分析、採点事務の在り方についてマニュアルを作成</p>	<p>○CMSへ完全移行、緊急連絡用としての携帯HPの立ち上げ、保護者、生徒向けへのプリント配布物の掲載 ○マネジメントプラン中間報告の公開 ○入試事務に対する研修会○第2学年修学旅行を写真でHPにUP ○保護者アンケート結果及び質問事項への回答公表・ホームページの更新は月1回以上達成。また、随時、話題の内容を新着情報として提供・保護者アンケートの回収率56% ○学校評議員に対する情報提供・入試事務マニュアルによる共通理解実施1/27・3/2の2回実施</p>	<p>1.18</p>	<p>※保護者アンケートの回収率が50%では甘いという指摘を受けたため、80%を目処としたい。また授業公開週間での保護者アンケートの検討</p>	<p>A-3 B-6</p>
<p>学校関係者評価コメント</p>				
<p>・保護者アンケート回収が50%では少なすぎる。80%でも不十分。教員が一週間から二週間かけてでも回収にまわれば、保護者も真剣になる。徹底してやるべきだ。・新しい試みに向けて成果を出そうと学校が努力していることはこちらに伝わってくる。・保護者アンケートの回収率を50%といわずさらに上積みされることを期待している。・家庭へのアンケートは生徒から親には伝わりにくい。価格のこともあるが、郵送が一番ではないか。メールも将来はできると思うが、現在では無理と考える。・PTAとの協力で保護者アンケートの回収率をもう少し上げてほしい。・施策の方向性は評価できる。広義な意味での学校の玄関窓口であるWeb更新はできれば週に一度は欲しいところである。</p>				

1:達成できた  
+2  
2:ほぼ達成できた

A:自己評価及び改善の方策は適当である  
B:自己評価及び改善の方策は概ね適当である  
C:自己評価及び改善の方策は適当でない

### 学校関係者その他の意見

・人の話を一生懸命聞く態度は、自分の意見を言えるという効果が現れる。かつての日本では聞くことができていたが、話すことに力をいれたため、今は聞くことが疎かになっている。聞いてなければ話せない。卒業式は肩の位置がしっかりしていた。いい卒業式だった。・1年前に比べたらみんなしっかりしてきたと思う。生徒はよく挨拶してくれる。気持ちのいい学校だと思う。学校へ期待することとしては、勉強は半分、それより人間関係、人と接すること、普通に生活ができるようにすることだと思う。子供も十人十色、いろいろな子どもがいる。いまは明るく元よく勉強もでき運動もできることばかりを先生も親も望んでいる。そういう子どもばかりではない。親が能力以上のことを要求しているところもある。・我々が企業に生徒を送る場合、また採用する場合も問われることは同じで、「人の話を聞き取れるか」という点である。人の話を聞き取ることができる→情報、整理、分析→提案ができ、プレゼンで説得となる。社会規準、評価規準は変化し、どういう問題を解決できるのか。しかし、指標をみていると必ずしもプランとの関係がうまく整理できていないのではない。国の情報、ITに関する人材育成の方針は、日本語教育力のアップに尽きる。文芸、情緒ではなく、説明的な文章の読解が求められている。高度なIT者を育てるために必要である。ワールドカップをめぐってオシムがいていたのは、日本のチームは言語力がかけていることである。コミュニケーションがとれていないチームの問題。これは日本人ビジネスについても同様。読書も「味わう読書」が大切だ。進路について言えば、大学も就職も共通して言えること。進路指標のひとつとして言えば、「2年時に自分のPR文がかけるかどうか」それが全員ができるかどうかというのがコミュニケーションという点でもいいのではないか。目的を明確化する→絶対指標をだす→達成されたかどうかみていく。いまの役所もそうだが学校全体の目標→各項目の設定がシステムとして採用されているかどうかを問うているのではないか。全体で先生方の取り組みについて言うべきことはありません。よく頑張ってくれていると思います。・これからよろしく願います。・学校教育理念と直接的につながる施策をより浮き立たせた方が、学校評価関係者を始め、校外の者にとってわかりやすい報告になると思います。神港高校が目指す学校像は「地域」「コミュニケーション能力」の二点が、他校との差別化につながるキーワードになっていると受け取っています。これが正しければ、これを際立たせる強みは何かを問うていかれては如何でしょうか。過去情報発信を受けた中にも数多く存在していたように思います。

企業が限られた人的資源のなかで新たな取り組みをする際、その時間を確保するために、既存の「業務の廃棄」を行うと聞きます。報告書の簡素化等、高校でも適用できる部分があるかもしれません。・神港高校マネジメントプランにかかわり、数多くの施策に取り組んでおられるその姿勢に熱い思いを感じております。より良い教育環境の最適化に期待いたします。